本日　晴れて学位授与式を迎えられた学部卒業生、研究科修了生の皆さん、1年の課程を終えて修了式を迎えられた助産学専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。またご家族や保証人、関係者の皆さんにも、お祝い申し上げます。この喜びの時を迎えて、皆さんの心には上智での学びと研究の生活を振り返り、さまざまな思いがよぎっていることと思います。入学時に思い描いていた目標を達成した満足感と共に、これまでの学びと研究の期間に新たな課題を発見し、次の挑戦への強い動機を感じておられるのではないでしょうか。

皆さんはコロナ禍の中、制限の多い困難な学生生活を送られました。それと同時にご家族の皆さん、大学後援会の皆さん、そして先輩ソフィアンの皆さんからの経済的、精神的なご支援もいただきました。ですから皆さんは、学位授与式のこの喜びの日に、過ぎた日々に受けた多くの人々からの愛に感謝しておられることでしょう。「幸せは、受けることよりも与えることにある」と言われるように、皆さんがこれから生き、働く世界で、人々への「与える愛」を示してくださることを期待しています。

パンデミックが過ぎ去らないうちに、戦争という暴力に世界は挑戦を受けています。その悲惨さに苦しめられているのは、この地球上の最も弱い立場の人々だ、という深刻な現実に私たちは直面しています。人間が合理的に科学的法則に基づいて経済的利益を追求すれば世界全体が豊かになるという楽観的な「物語」は色あせました。今や、人間が生存するために必須の食料や水、エネルギー資源までもが、世界がグローバル化したゆえに、暴力を増長させる「人質」にされてしまっています。これまでの楽観的な「物語」に代わる新しい「物語」を、皆さんがこれから出かけて行く世界は必要としています。その物語は私たちに呼びかけて、より善いものへの憧れを抱かせ、世界の中で現に働く暴力的な傾きに屈することなく、そのより善いものを求め続けさせる強い動機となる物語です。実際、合理的な利潤追求が最高の価値とされる経済や経営の分野でも、新たに「物語」を基礎に置く方法が注目されているそうです。経済や経営の営みは、人間にとってふさわしい価値を生み出そうとする動機や目的に基づいてなされるものだという「物語」です。

インドのカトリック作家による小さな物語があります。ある修行者が修行のため森の中に入って行き、そこで手足のない狐がころがっているのを見た。するとこの動けない狐に虎が獲物を持ってきて食べさせた。そこで修行者は貧しいものにも食べ物を与える天の神を賛美した。しかし天から声があった。「お前は見るべき所を間違えた」。それから修行者は森から出て町に帰った。道端に身寄

りも無く飢えと寒さに震えている少女を見た。そこで修行者は言った。「天の神よ、あなたはこの少女を助けるために一体、何をしたと言うのですか」。すると天から声があった。「私はお前を造った」。世界はより善いものへと進み、人間は愛され幸せに生きるために生まれている、という「大きな物語」を前提にするこの小さな「物語」は、私たち一人ひとりが造られた存在であることの意味を、言い換えれば、命を与えられて生きていることの使命を、私たちに気づかせてくれます。「他者のために、他者と共に」生きるという私たち一人ひとりに与えられた使命です。

今日母校を卒業、修了される皆さんには、上智の精神「他者のために、他者と共に」をそれぞれの場で生きてくださることを期待いたします。皆さんの働きをとおして、きっと世界は人間にふさわしいものへと変えられていくでしょう。皆さんが世界にとって祝福の源となり、多くの人に喜びをもたらしてくださいますように祈念して、皆さんへの祝辞の結びといたします。

本日はご卒業、まことにおめでとうございます。

2023 年 3 月 28 日
学校法人上智学院理事長　佐久間　勤